

# 中国人結婚移住女性の日本語による談話における接続表現

—日本語母語話者との比較から—

## Use of Japanese Connective Expressions in the Discourse of Chinese Immigrant Wives: A Comparison with That of Native Japanese Speakers

王 瑜 青

WANG Yuqing

This study examines the discourse of Chinese immigrant wives living in Japan and their use of Japanese connective expressions by comparison to that of native Japanese speakers. Across both groups, the number of connective expressions does not differ, but their variety does. Nearly half the connective expressions used by native Japanese speakers (e.g. *node* and *soshite*) do not appear in the speech of Chinese immigrant wives. Chinese immigrant wives use the *-te* form frequently whereas native Japanese speakers exploit various connective expressions for connecting sentences in discourse. Such difference in usage of connective expressions can be useful for building a better relearning material for immigrant wives. It is important for those relearning Japanese to acquire the usage rule of *-te* form and of various types of connective expressions.

キーワード： 中国人結婚移住女性、談話、接続表現、日本語母語話者

Keywords: Chinese immigrant wives, Discourse, Connective expressions, Japanese native speakers

### 0. はじめに

本研究は中国人結婚移住女性<sup>1</sup>による日本語の談話を対象としている。その研究動機は、王瑜青（2016）で述べたように、筆者が中国人結婚移住女性の日本語習得における悩みに強い興味を持っているからである。その悩みとは、「自分の言いたいことをまとまりのある話としてうまく相手に伝えられない」ということである。留学生や技術研修生のような日本での滞在期間が短い日本語学習者と異なり、地域に在住し日本に永住する可能性が高い結婚移住女性にとって、自分自身が日本語で話を組み立て、日常生活で何かについて説明

---

<sup>1</sup> 富谷他（2009）では、日本人男性との結婚によって日本に移住した女性を「結婚移住女性」と呼ぶ。本研究でも、この用語を使用する。

したり自分の意見や考えを述べたりする場面は、日本の滞在期間が長くなるほど多くなると考えられる（王瑜青 2018）。本研究では、中国人結婚移住女性が「日本語で話を組み立て、日常生活で何かについて説明したり自分の意見や考え（＝まとまりのある話）を述べる」ことができるため、どのような日本語学習項目が求められるのかについて明確にした。

深川（2009：2）は、「発話を、ひとまとまりのある話、つまり談話へと組み立てていくには、発話と発話をどのようにつないでいくかということが問題になる」と指摘している。発話と発話のつながりに関わっている言語表現の一つは接続表現<sup>2</sup>である。よって、本研究では、接続表現に焦点を置き、中国人結婚移住女性の日本語による談話に見られる接続表現の実態を明らかにし、日本語母語話者との違いを比較することを目的とする。その両者の違いから、中国人結婚移住女性の日本語談話力を向上させるための日本語学習項目を検討する。

## 1. 先行研究

本節では、まとまりのある話に関わる要素と、接続表現を手がかりに学習者の日本語習得を分析している先行研究を概観する。

### 1.1. まとまりのある話に関する先行研究

工藤・藤森（2009：50）は、まとまりのある話を「ある特定のテーマについて、結束性を保ちながら展開し完結する談話を指す」ととらえている。つまり、まとまりのある話の産出は結束性に関わっていると考えられる。ハリデイ・ハサン（1997）は、結束性はテキスト<sup>3</sup>を形成するのに重要な役割を果たしており、テキストの一つの部分と他の部分との間に存在する連続性を表していると述べている。ハリデイ・ハサン（1997：392）によれば、「結束性がもたらす連続性があればこそ、読み手や聞き手は、欠落しているすべての部分、つまり、テキストには存在しないが、テキストの解釈のために必要な、全体像の全成分を補うことができるのである」ということである。言葉のやりとりを理解する上での大きな問題点の一つは、どのようにして聞き手が欠落している情報を埋めるのかを知ることであ

<sup>2</sup> ここでいう接続表現は、佐久間（2002）の定義に従う。佐久間（2002：162）は、接続表現を「二つ（以上）の言語単位（単語・文節・句・節・文・連文・段など）の間に位置して、前後の意味内容を関連付け、より大きい意味のまとまりとして結びつける働きをする言語形式である。特に、文や節よりも上位の言語単位をつなぐ『接続詞』『接続助詞・並列助詞』とその相当表現を対象とする」と定義している。

<sup>3</sup> 亀井・河野・千野（1996）は、談話はテキスト（text、テキストとも）と同義で使われることもあり、「テキスト」はヨーロッパ系の研究者が、「談話」はアメリカ系の研究者が用いる傾向があると述べている。本研究は、話し言葉を指す時には「談話」、書き言葉を指す時「テキスト」という語を使用する。

る（ハリデイ・ハサン 1997：392）。さらに、ハリデイ・ハサン（1997）は、聞き手が聞く文や語が、文法的あるいは語彙的にどんなに完璧に形成されていても、聞いたものの各部分に連続性がなく、聞き手自身自身による解釈が多いと、その聞いた話はテキストではないと指摘している。つまり、結束性はテキストを解釈するのに欠くことのできない存在である。ハリデイ・ハサン（1997）は、結束性として、文法的結束性と語彙的結束性の二つを挙げている。文法的結束性には、指示、代用、省略、接続が挙げられ、語彙的結束性としては、再述とコロケーションが挙げられている。本研究は、その中の接続表現に注目し、分析を行なう。

## 1.2. 接続表現に関する先行研究

本研究のように、接続表現を手がかりに学習者の日本語学習を分析する研究（田代 1995、栃木 1995、深川 2007、砂川 2017 など）は多いが、研究対象者はすべて学校のような教育機関で日本語教育を受けている中上級レベルの留学生を対象としている。例えば、深川（2007）は、上級日本語学者の談話における接続表現を日本語母語話者と比較し、その特徴を分析している。その分析結果から、日本語母語話者の談話に多く出てきた「それで」、「で」及び「という」のような接続表現は、学習者の談話においてほとんど見られなかったことを明らかにしている。本研究のように、教育機関において日本語学習をしていない中国人結婚移住女性を対象とする研究は王瑜青（2017）しかない。王瑜青（2017）は、2名の中国人結婚移住女性の談話における接続表現を初級日本語教科書における接続表現と対照しながら分析を行なった。その分析結果から、調査協力者2名とも初級の日本語教科書で提示されている接続表現が運用場面で十分に使えていないことが明らかになっている。しかしながら、中国人結婚移住女性が使用する接続表現の特徴はまだ十分に明らかにされていない。そこで本研究では、日本語母語話者の談話における接続表現との比較からその特徴を分析する。

## 2. 調査概要と分析方法

この節では、本研究の調査協力者の内訳、調査方法及び分析方法について述べる。

### 2.1. 調査協力者

本研究は、新潟市に在住している中国人結婚移住女性7名と日本語母語話者6名を調査対象とした。表1は、中国人結婚移住女性の内訳<sup>4</sup>である。

<sup>4</sup> C1-C7は調査の順で並べる。滞在年数は来日した日からインタビューを行なった日まで。年だけを言う調査協力者の場合、約の年数である。日本語学習歴は日本語学習を始めた日からインタビューを行なった日まで。来日年数が長い人は（C6とC7）は現在、地域の日本語教室に通っていないが、

表 1 調査協力者である中国人結婚移住女性の内訳

	年齢層	来日年	滞在年数	日本語学習歴
C1	40代後半	2016	1年9ヶ月	1年8ヶ月
C2	40代前半	2016	1年7ヶ月	1年
C3	40代前半	2015	2年9ヶ月	3年
C4	40代前半	2016	2年	2年
C5	60代前半	2013	5年	5年
C6	30代後半	2009	9年	9年
C7	30代後半	2004	14年	14年

性別による談話の差異を避けるため、日本語母語話者もすべて女性に限定している。年齢層として、20代前半1名、30代後半1名、40代前半2名、50代前半2名で、合計6名である。

## 2.2. 調査方法

調査は、2018年4月から6月まで、協力者の指定した場所で行なった。具体的には、協力者に2種類の6コマの連続の絵を見せ、「絵にかかかれている内容を現場にいない友だちに伝えてください」と指示した。話したことをすべて録音し、収集した。

絵に関して、本研究は簡単な場面と複雑な場面を描く2種類の絵<sup>5</sup>を用意した。それぞれは、主婦がお茶を入れる場面（【絵1】）とクロスカントリーレースに関する場面（【絵2】）である。お茶を入れるという簡単な場面の絵を用いた理由は、中国人結婚移住女性が自分の日常生活に親しんでいる場面を他人に説明する際、まとまりのある話としてできているのかを考察するためである。また、クロスカントリーレースという場面を描いている絵は協力者の生活とあまり関係がないが、複雑な場面を描く際の中国人結婚移住女性の接続表現の使用状況を見るため、あえて展開が違う絵を採用したからである。

## 2.3. 分析方法

本研究は、接続表現の使用について分析する際、「文」と「節」を談話内部の単位ととらえる。

---

テレビ番組を見たりして日本語を独習している。そこで、学習歴を計算する時、現在の時間も含まれているとする。

<sup>5</sup> Heaton (1966) の『Composition through pictures』からのコピーである。資料1で提示する。本研究以外、この本にある絵を利用し日本語学習者の談話を分析するのは栃木 (1990) もあった。

### 2.3.1. 文について

文字化する際の文の設定に関して、メイナード（1993）の談話における「文」の認定方法に従う。「文」は通用少なくとも一つの用言を含む。ただし明らかに用言が省略されていると考えられる場合は、用言なしでも「文」と見なす。日本語の場合、用言の連用形「(一て形)」で終わる表現も文末の下降調のイントネーションを伴う場合は文末と見なす（メイナード 1993 : 98）。メイナード（1993）は用言の連用形として「～て形」も挙げているが、本研究では、用言の連用形は動詞、イ形容詞、ナ形容詞の連用形（例えば、「注ぎ」、「速く」、「静かに」）に限定する。「～て形」について、文中の「～て形」だけを接続表現とし、文末の「～て形」（お茶準備して）は文の終結ととらえる。

### 2.3.2. 節について

接続表現は文と文をつなぐだけでなく、節と節のつながりに役割を果たしている。益岡・田窪（1992）は、「述語を中心とした各まとまり」を節と呼び、複文の文末の述語を中心とした節を「主節」、主節以外の節を「接続節」と名付けている。そして、接続節を、「従属節」と「並列節」に分けている。さらに、従属節の下位カテゴリーとして、「補足節」、「副詞節」<sup>6</sup>、「連体節」を挙げている。接続表現を見るため、本研究では、並列節と従属節における「副詞節」だけを節のカウント対象とする。例えば、「私は王さんが走ってわたるのを見た」における形式名詞「の」による補足節（王さんが走ってわたる）、「王さんはAが犯人だと言った」における引用節（Aが犯人だ）、及び「中国で買った服を日本に持ってきた」における「中国で買った服」という連体節は節としてカウントしない。つまり、本研究において補足節、引用節、連体節を持っている文は一つの節によって構成されている文ととらえる。また、接続詞がある場合の節の数え方について、例えば、「やかんに水を入れます。そして火にかけます」という文は、一つの節の文（やかんに水を入れます）と接続詞で始まる一つの節の文（そして火にかけます）としている。その理由として栃木（1995）、石黒他（2009）などが述べている。「接続詞は、先行文脈との間に切れ目があり、後続文脈に属する表現である」という立場を筆者も支持するためである。よって、本研究では、「そして」のような接続詞を後続節に属し、後続の節と合わせ、一つの文ととらえている。

<sup>6</sup> 副詞節について、益岡・田窪（1992）は、時を表す副詞節、原因・理由を表す副詞節、条件・譲歩を表す副詞節などを挙げている。

### 3. 中国人結婚移住女性と日本語母語話者の談話における接続表現の分析

#### 3.1. 接続表現の全体的な出現傾向

2 種類の絵について語っている談話における接続表現<sup>7</sup>は、中国人結婚移住女性が合計 102 例である。そのうち、【絵 1】で使われている接続表現は 58 例で、【絵 2】で 44 例である。日本語母語話者の談話における接続表現は合計 79 例であり、【絵 1】で 40 例、【絵 2】に 39 例である。日本語母語話者より、中国人結婚移住女性の談話における接続表現の出現総数は多いが、接続表現を異なり別で見ると日本語母語話者のほうが多く、24 種類である。中国人結婚移住女性のほうは 21 種類である。両者が使用した接続表現のバリエーションの数においては、差がほとんどないが、どのような接続表現を使ったかという、その「内容」には大きな違いがあった。これについて、3.2 節で詳しく説明する。

それぞれの異なり別の接続表現の出現数を多い順から見ると、中国人結婚移住女性の談話においては、接続表現「～て形」、「でも」、「から（理由）」・「～たら」、「それから」、は 1 位から 4 位までを占めている。そのうち、「～て形」という接続表現は 38 例で、2 位の「でも」より 28 例多く、中国人結婚移住女性の談話における接続表現の総数の 37.3% を占めている。また、理由を表す「から」と「～たら」は同じ 9 例で、3 位である。

一方、日本語母語話者の談話においては、接続表現「～て形」、「～たら」・「ので」、「そして」、「ために」・「用言連用形」は出現数の多いものから順に 1 位から 4 位を占める。中国人結婚移住女性の談話における接続表現と同様に、「～て形」は日本語母語話者の談話においても一番多く出現され、13 例であり、日本語母語話者の使用した接続表現の 16.5% を占めている。中国人結婚移住女性の談話における 1 位の接続表現と 2 位の差（28 例の差）が著しいのに対して、日本語母語話者の談話において、1 位の接続表現と 2 位の差は、わずか 4 例であった。

また、中国人結婚移住女性の絵に対する発話総数は合計 139 文であり、日本語母語話者の 75 文の 1.6 倍である。【絵 1】と【絵 2】に対する発話総数をそれぞれ見ると、日本語母語話者の場合は 41 文対 34 文で差があまりないと言える。その一方、中国人結婚移住女性の場合、【絵 2】に対する発話総数は 83 文であり、【絵 1】の 56 文の 1.5 倍である。絵に対する発話の総数だけでなく、発話の合計節数も日本語母語話者より中国人結婚移住女性のほうが多い。中国人結婚移住女性の発話節数は合計 210 節であり、日本語母語話者の 131 節の 1.6 倍である。しかし、平均 1 文あたりの節数について、中国人結婚移住女性は約 1.51 節であり、日本語母語話者は約 1.75 節で、両者の差はあまり多くない。談話全体において 1 文あたりの平均節数について両者の差は激しくないが、【絵 2】の 1 文あたりの平均節数について日本語母語話者は 1.97 であり、中国人結婚移住女性の 1.34 より多い。つまり、

<sup>7</sup> 中国人結婚移住女性と日本語母語話者の談話における各接続表現の使用状況は資料 2(表 4 で示す)で提示する。



中国人結婚移住女性の【絵2】に対する談話において、1文あたりの平均節数が少なく、接続表現の使用が少ないことがわかる。

### 3.2. 中国人結婚移住女性が使用している接続表現と日本語母語話者との比較

3.1 節では、中国人結婚移住女性と日本語母語話者が使用している接続表現のバリエーションの数における差はあまりないが、どのような接続表現であるのかという「内容」には大きな違いがあったと述べた。この節では、両者の違い、つまり、中国人結婚移住女性のみ(表2で示す)、あるいは日本語母語話のみ(表3で示す)が使用している接続表現を分析する。

#### 3.2.1. 中国人結婚移住女性のみ使用している接続表現

表2は、日本語母語話者が使用していないが、中国人結婚移住女性が使用している接続表現である。その中で、一番顕著なのは、逆接を表す「でも」と理由を表す「から」である。この2種類の接続表現は中国人結婚移住女性の談話における接続表現の出現率の2位と3位を占めており、合計接続表現出現総数の約18.6%である。その次に、多く出現したのは「あと(は)」である。4例のうち3例が【絵1】の「お茶を入れる」場面について語っている談話に出てきた。例えば、以下の中国人結婚移住女性C2の談話<sup>8</sup>において、「あと」はお茶が出来上がるまで各動作の間に出現し、動作の前後の順序を表している。

- (1) 王さんは飲みたいから、王さん、やかんで水入れて。あと、沸かして。急須をお湯で洗って。あと、お茶入れて。(C2)

また、「最後に(は)」、「次に(は)」、「とか」のような列挙の意味を表す接続表現は日本語母語話者の談話において1回も出てこなかった。累加の役割を持っている「また」は、中国人結婚移住女性の談話において、3回出現している。ここで、中国人結婚移住女性C7の談話を挙げている。

- (2) 今度、お湯沸かしたら、お湯入れて。また、捨てた。今度、なんで捨てたら。また、お茶の粉を入れた。(C7)

「だから」は中国人結婚移住女性の【絵2】について語っている談話に2回出現している。そして、その2回はすべて中国人結婚移住女性C1の談話に出現している。その他、中国

<sup>8</sup> 協力者の談話に出現している接続表現は下線で示している。

人結婚移住女性の談話にのみ現れる接続表現は、「その時」、「しかも」と「～ように」がある。このように、日本語母語話者の談話にはまったく出現しない、つまり中国人結婚移住女性の談話にのみ現れる接続表現は、中国人結婚移住女性の談話における総接続表現数の32.8%を占めている。

- (3) 私、一番早い。ちょっと休憩する。大丈夫。間に合う。だから、木の下でちょっと寝る。(C1)

表2 中国人結婚移住女性の談話にのみ現れる接続表現

中国人結婚移住女性					
No	接続表現	出現数			出現率 (%) <sup>9</sup>
		全体	絵1	絵2	
1	でも	10	1	9	9.8
2	から(理由)	9	3	6	8.8
3	あと(は)	4	3	1	3.9
4	最後に(は)	3	1	2	2.9
5	とか	3	3	0	2.9
6	また	3	3	0	2.9
7	だから	2	0	2	2.0
8	その時	2	0	2	2.0
9	次に(は)	1	1	0	1.0
10	しかも	1	1	0	1.0
11	～ように	1	1	0	1.0

### 3.2.2. 日本語母語話者のみ使用している接続表現

表3は、日本語母語話者の談話にしかない接続表現を示したものである。

日本語母語話者の談話に出現しているが、中国人結婚移住女性の談話に出現していない表現の中で、一番多くあったのは理由を表す接続助詞「ので」である。日本語母語話者の談話において、「ので」は、合計9例で、日本語母語話者の接続表現の出現率の2位を占めている。日本語母語話者の接続表現の出現率の3位を占めている「そして」は中国人結婚移住女性の談話において1回も出てこなかった。「ので」と「そして」のような日本語母語

<sup>9</sup> 出現率は個々の接続表現の出現数を接続表現の総数で割るものである。個々の接続表現の出現数が接続表現の総数で整除されないので、得られた結果は若干誤差がある。



話者に多用されている接続表現以外、日本語母語話者のみが用いている接続表現には、用言の連用形、理由を表す「で」、「しかし」、「結局」などの12種類の接続表現がある。個々の出現率は高くないが、多用されている「ので」、「そして」と合わせて、合計、日本語母語話者の談話における総接続表現数の44.5%を占めている。つまり、日本語母語話者が使用している接続表現の半分近くは中国人結婚移住女性の談話に出てこなかった。

表3 日本語母語話者の談話にのみ現れる接続表現

日本語母語話					
No	接続表現	出現数			出現率 (%)
		全体	絵1	絵2	
1	ので	9	3	6	11.4
2	そして	7	5	2	8.9
3	用言連用形	5	1	4	6.3
4	しかし	2	1	1	2.5
5	結局	2	0	2	2.5
6	そのあと	2	2	0	2.5
7	または	1	1	0	1.3
8	～し（並列）	1	0	1	1.3
9	その間	1	0	1	1.3
10	で（理由）	1	0	1	1.3
11	～時	1	0	1	1.3
12	つまり	1	1	0	1.3
13	到頭	1	0	1	1.3
14	～けれども	1	0	1	1.3

#### 4. 中国人結婚移住女性の談話における接続表現に対する考察

##### 4.1. 複雑な場面に対する談話における接続表現の特徴

第3節での日本語母語話者の接続表現と比較することで、中国人結婚移住女性の談話における接続表現は以下の傾向があったことがわかった。

接続表現の出現数について、日本語母語話者の79例と比べ、中国人結婚移住女性の多用（102例）が目立っているが、その種類の数について、両者の差はほとんどなかった（中国人結婚移住女性が21種類で、日本語母語話者が24種類）。発話総数に関して、中国人結婚移住女性は日本語母語話者の1.6倍である。【絵1】と【絵2】に対する発話総数を見る

と、日本語母語話者の場合は41文対34文であり、ほとんど差がない。それに対して、中国人結婚移住女性の場合、【絵2】に対する発話文は【絵1】の1.5倍である。また、1文あたりの節数を見ると、【絵1】について、両者はあまり差がないが、【絵2】の場合、中国人結婚移住女性は平均約1.34であり、日本語母語話者の1.97より少ない。

つまり、複雑な場面を描く【絵2】において中国人結婚移住女性は、単文の羅列が多く、接続表現の出現は【絵1】より少なくなる傾向がある。例えば、【絵2】において中心的な人物がレースの途中で自分が他の人を引き離している場面、木の下で休む場面などを描写するとき、中国人結婚移住女性は発話の羅列で表現することが多い。それに対して、日本語母語話者はさまざまな接続表現を使い、文と文の関係を明確に表し、談話を展開している。

- (4) 私、一番早い。ちょっと休憩する。大丈夫。間に合う。だから、木の下でちょっと寝る。大丈夫。(C2)
- (5) 1人男の子はすごく速いです。一番です。でも、だんだん暑くなります。休憩したいです。自分少し、木の下で寝ています。(C4)
- (6) ゼッケン1番の人はやっぱりとても速く、一番走ってきました。途中で、振り返ってみたら、まだ誰も来ないのでゼッケン1番の男の人は木陰で休みました。(J3)

#### 4.2. 「～て」形の多用

一方、中国人結婚移住女性の談話において、「～て形」の多用が目立っている。合計38例あり、中国人結婚移住女性の談話における総接続表現数の37.3%を占めている。その38例のうち、25例はお茶を入れる場面を描く【絵1】に集中している。つまり、中国人結婚移住女性が動作の前後順序を話す際、「～て形」でつなげている傾向が強いのである。

中国人結婚移住女性が動作の前後順序を表すのに「～て形」を多用するのに対し、日本語母語話者の談話において、【絵1】と【絵2】の「～て形」の出現数は1例の差しかない。それは、日本語母語話者は「～て形」以外の接続表現を使用しているからである(例7と例8)。また、「～て形」を使用している場合、一つの文中において最大2回連続しか使わない(例9)。それに対して、中国人結婚移住女性の談話において、一つの文中に4回連続使用している場合もある(例10、例11及び例12)。

- (7) それから、お茶の葉を入れてて、お湯を注ぎ、それぞれのカップにお茶を入れます。(J1)
- (8) そして、お湯が沸いたら、ティーポットまたは急須にお湯を入れてて、ティーポットを温めます。(J3)
- (9) それで、ポットのお湯を捨てて、お茶をポットの中に入れてて、おいしいミルクティーを作りました。(J6)

- (10) それから、お茶入れて、お湯入れて、準備の茶碗入れて、お茶入れて、終わります。  
(C1)
- (11) お湯を沸騰して、火を止めて、急須に入れて、急須を温めて、お湯を捨てて。(C3)
- (12) 私はやかんに水を入れて、強火がかけて、お湯を沸かして、急須にお湯を入れて。  
(C4)

日本語学習者の日本語において「～て形」の多用は多くの先行研究(田代 1995、渡邊 1996、深川 2009 など)で指摘されている。例えば、田代(1995)は、中上級日本語学習者の文章において、日本語母語話者は「～て形」と用言の連用接続を多く使用し、両者の組み合わせによって、意味の切れ目をわかりやすくし、文をつなげるのに対して、中国人学習者は「～て形」への偏りが見られると指摘している。本研究の中国人結婚移住女性の談話においてもその特徴が見られた。中国人結婚移住女性に「～て形」の多用の理由を聞いたところ、「授業で、『～て』形の練習を多く要求されていたので使いやすい」、「『～て』形は前後の順序を表す役割を持っているのに、なぜ、使わないのか」などの答えが出てきた。つまり、中国人結婚移住女性は、節と節をつなげようとする際、その文脈にふさわしい連続関係を表す接続表現を知らないか、あるいは運用することができない場合に、便宜のため「～て形」でつなぐというストラテジーを使用しているのではないかと考えられる。よって、このような中国人結婚移住女性が、再び日本語を学ぶ際、その学習項目として「～て形」の使用ルール、文脈に適した「～て形」とは異なる他の接続表現を示すことは重要であると考ええる。

### 4.3. 意味が類似する接続表現の使い分けについて

#### 4.3.1. 「から」と「ので」の使い分け

原因・理由を表す際、日本語母語話者は「ので」を使用するのに対して、中国人結婚移住女性は、節と節をつなぐ際「から」、文と文をつなぐ際、「だから」を使用している。原因・理由を表す「から」と「ので」の使い分けについて、永野(1952:38)は、以下のよう

「から」は、表現者が前件を後件の原因・理由として主観的に措定して結びつける言い方、「ので」は、前件と後件とが原因・結果、理由・帰結の関係にあることが、表現者の主観を超えて存在する場合、その事態における因果関係をありのままに、主観を交えずに描写する言い方である。

主観・客観の違い以外、永野(1952)は、両者の使用上におけるニュアンスの諸相につ

いても指摘している。永野（1952）によれば、「から」を使う場合、聞き手に、主観的な理由を押し付け、根拠を強調すぎる印象を与えるのに対して、「ので」の場合は、主観を押し付けず、淡々と理由を述べるという印象を与えるということである。つまり、「から」より「ので」のほうは丁寧さが強い。丁寧さの違いに基づき、山本（2001）は、聞き手が親しい間柄である時には「から」を使い、聞き手が親しい間柄ではなく、あるいは聞き手に対して敬意を示したい時「ので」を使うべきだと説明している。

日本語母語話の接続表現の使用率で2位を占めている「ので」は1回も中国人結婚移住女性の談話に出現していないことから、彼女らが「ので」の使用方法ができていない可能性が高いと推測する。中国人結婚移住女性が使用している初級日本語教科書『みんなの日本語』における「から」と「ので」の出現順序から見ると、「から」は第9課、「ので」は第39課であることがわかった。もちろん、現在の初級日本語教科書において終止形を先に導入するので、終助詞的な用法を持っている「から」（例えば、ちょっと待ってください。すぐ持っていきますから）は、「ので」より先に教科書に提示されているのが当然であるが、経済的理由あるいは時間的な理由で初級の授業をすべて受けられない中国人結婚移住女性が、「ので」を使えない可能性は十分推測できる。しかし、社会的立場の上下関係を重んじる日本では、聞き手、場面や発話内容に応じて丁寧さを持っている表現、例えば、「ので」を運用できることは日本社会における人間関係の構築のために必要だと考える。よって、前述のような中国人結婚移住女性にとって、「ので」の習得が彼女たちの日本語運用力を高めるために求められる。

- (13) お湯がないから、やかん持って、水入れて。(C1)
- (14) 今日、マラソンの試合がありますから、みんな全部でスタートラインに並んでる。(C2)
- (15) 今日の陽気は強いだから、一郎さん考えて、「大丈夫、私、走る一番大丈夫」と思う。(C3)
- (16) 途中で振り返って見たら、まだ誰も来ないので、ゼッケン1番の男の子は木陰で休みました。(J3)
- (17) 途中まで1番だったので少し休みました。(J5)

#### 4.3.2. 「また」と「そして」の使い分け

お茶を入れる場面【絵 1】について、最初のお湯を沸かすという動作から最後のお茶の出来上がるまで、各動作は時間的に継起の関係以外、累加の関係もある。そのお茶を入れる各動作の関係を表す際、継起の役割を持っている接続助詞を使用する以外、日本語母語話者は接続詞「そして」も用いている（例 18 と 19）。しかし、日本語母語話者の談話にお

ける接続表現で3位を占めている「そして」は1回も中国人結婚移住女性の談話に出現していなかった。中国人結婚移住女性はお茶を入れる各動作の関係を表す際、接続詞「また」を使用している(例20)。同様に、「また」は日本語母語話者の談話において1回も出てこなかった。

(18) まず、やかんに水を入れます。そして火にかけます。(J1)

(19) やかんに火をかけてお湯を沸かします。そして、沸騰したお湯を茶葉の入っていないティーポットに注ぎました。(J2)

(20) 今度、お湯沸かしたら、お湯入れて。また、捨てた。今度、なんで捨てたろう。また、お茶の粉を入れた。(C7)

確かに「そして」と「また」は同じ累加の意味を持ち、両方とも同文脈の中での累加でなければならないが、森山(2016)は、「そして」は継起的な事態の累加が表せるのに対して、「また」は継起的な事態をつなげにくいと指摘している。さらに、森山(2016)は、「そして」と「また」の使い分けが難しいので順番に事例を並列する場合、「まず→次に→そして→また」のような順序性が一般的で、継起性なしの「また」を累加の最後に位置するほうが安定すると指摘している。森山(2016)の観点から見れば、中国人結婚移住女性 C7の談話における最初の「また」は不自然である。「そして」という接続表現は初級日本語教科書において早い段階<sup>10</sup>に提示されているのにもかかわらず、中国人結婚移住女性は1回も使用していない。よって、談話運用力をあげるためには、「また」の使用制限以外、「そして」の実用性の強調、及びそれが実際の談話場面でどのように機能するかについての説明も必要である。

## 5. まとめ

本研究は、文と文の前後関係のつながりに関わっている接続表現に焦点を置き、中国人結婚移住女性の日本語による談話に見られる接続表現を日本語話者の談話における接続表現と比較し、分析した。その分析の結果から、中国人結婚移住女性の談話における接続表現は以下の傾向があることがわかった。

談話における接続表現の出現数について、日本語母語話者の79例と比べ、中国人結婚移住女性の多用(102例)が目立っているが、接続表現を異なり別で見ると、その出現数は両者の差がほとんどない。しかし、どんな接続表現が出現したかについては、大きな違いがあった。日本語母語話者が使用している接続表現の半分近くは中国人結婚移住女性の談

<sup>10</sup> 『みんなの日本語』の場合、「そして」は第8課に出現している。

話に出てこなかった。

また、1文あたりの節数を見ると、【絵1】について、両者はあまり差がないが、【絵2】の場合、中国人結婚移住女性は平均 1.34 であり、日本語母語話者の 1.97 より少ない。つまり、複雑な場面を描く【絵2】において中国人結婚移住女性は単文の羅列が多く、接続表現の使用は【絵1】より少なくなる傾向がある。

一方、中国人結婚移住女性の談話において、「～て形」の多用が目立っている。合計 38 例であり、中国人結婚移住女性の談話における接続表現の 37.3%を占めている。その 38 例のうち、25 例はお茶を入れる場面を描く【絵1】に集中している。つまり、中国人結婚移住女性が動作の前後順序を話す際、「～て形」でつなげている傾向が強いということである。よって、本研究で取り上げている中国人結婚移住女性が再び日本語学習を行なう場合、その学習項目として「～て形」の使用ルール、前件と後件の前後順序を表す他の接続表現の習得は重要であると考えられる。

さらに、日本語母語話の接続表現の出現率で2位を占めている「ので」はまったく中国人結婚移住女性の談話に出現していないことから、彼女らが「ので」の運用が定着していない可能性が高いと推測する。生涯、日本で定住しようとし、日本語運用力の向上を願っている中国人結婚移住女性にとって、「ので」という表現を使いこなせる必要があるだろう。また、累加の意味を表す「そして」と「また」の使い分け及び「そして」の再確認も必要である。

## 6. 今後の課題

今回の分析では、中国人結婚移住女性と日本語母語話者の談話における接続表現の使用傾向について考察した。中国人結婚移住女性が運用できなかった「そして」、「ので」などの接続表現はいつ、どのような形で日本語教育の指導に取り込むのがよいのか、今後はインタビュー協力者のデータを増やすと同時に、この点についても考察を行なう。

## 参考文献

- 石黒圭・阿保きみ枝・佐川祥予・中村紗弥子・劉洋（2009）「接続表現のジャンル別出現頻度について」『一橋大学留学生センター紀要』12、pp.73-85
- 王瑜青（2016）「定住外国人学習者の持っている文法規則—日本人と結婚した中国人女性の場合—」『現代社会文化研究』63、pp.161-171、新潟大学現代社会文化研究科
- 王瑜青（2017）「中国人結婚移住女性の接続表現—初級日本語教科書の談話展開の分析を通じて—」『現代社会文化研究』65、pp.79-91、新潟大学現代社会文化研究科
- 王瑜青（2018）「中国人結婚移住女性の談話における情報量とその展開に関する一考察 —日本語母

- 話者との比較から」第3回日本語・日本文化国際学術討論会 武漢（口頭発表）
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一（1996）『言語学大辞典6 術語編』三省堂
- 工藤嘉名子・藤森弘子（2009）「初級からのスピーチ指導－まとまりのある話ができるために－」『日本語教育方法研究会誌』16、pp.50-51
- 佐久間まゆみ（2002）「接続詞・指示詞と文連鎖」『日本語の文法4 複文と談話』pp.119-189、岩波書店
- 砂川由里子（2017）「ストーリーテリングにおける順接表現の談話展開機能」『時間の流れと文章の組み立て』pp.183-215、ひつじ書房
- スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語I』スリーエーネットワーク
- 泉子・K・メイナード（1993）『日英語対照研究シリーズ2 会話分析』くろしお出版
- 田代ひとみ（1995）「中上級日本語学習者の文章表現の問題点－不自然さ・わかりにくさの原因をさぐる－」『日本語教育』85、pp.25-37
- 栃木由香（1990）「日本語学習者のストーリーテリングに関する一分析－話の展開と接続形式を中心に－」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』5、pp.159-174
- 栃木由香（1995）「日本語中級学習者の話しことばのテキストの型－接続表現の使用を中心に－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』10、pp.79-83
- 富谷玲子・内海由美子・斉藤裕美（2009）「結婚移住女性の言語生活－自然習得による日本語能力の実態分析－」『多言語文化実践と研究』2、pp.116-137
- 永野賢（1952）「『から』と『ので』とはどう違うか」『国語と国文学』2月号、pp.30-41
- 深川美帆（2007）「接続表現から見た上級日本語学習者の談話の特徴－日本語母語話者と比較して－」『言語と文化』pp.253-268
- 深川美帆（2009）『日本語学習者の談話における接続表現の習得』名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士論文
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法－改訂版－』くろしお出版
- 森山卓郎（2016）「文法と論理の意識を育てる－累加の接続詞『そして』と『また』を中心に－」『日本語学』35（2）、pp.26-38、明治書院
- 山本もと子（2001）「接続助詞『から』と『ので』の違い－『丁寧さ』による分析－」『信州大学留学生センター紀要』2、pp.9-22
- 渡邊亜子（1996）『中・上級日本語学習者の談話展開』くろしお出版
- M.A.K. ハリデイ・ルカイヤ ハサン（著）安藤貞雄・多田保行・永田龍男・中川憲・高口圭轉（訳）（1997）『テキストはどのように構成されるか－言語の結束性－』ひつじ書房
- J.B. Heaton（1966）*Composition through pictures*. LONGMAN



資料 1 : 本研究が使用している絵



【絵 1】 出典 : J.B. Heaton (1966 : 7-8) 『Composition through pictures』



【絵 2】 出典 : J.B. Heaton (1966 : 41-42) 『Composition through pictures』

資料2：協力者の談話資料における接続表現

表4 協力者の談話資料における接続表現

No	接続表現	中国人結婚移住女性			日本語母語話者		
		全体	絵1	絵2	全体	絵1	絵2
1	から（理由）	9	3	6	0	0	0
2	～て形	38	25	13	13	7	6
3	～たら	9	6	3	9	4	5
4	それから	5	4	1	2	2	0
5	だから	2	0	2	0	0	0
6	あと（は）	4	3	1	0	0	0
7	～てから	2	1	1	2	2	0
8	でも	10	1	9	0	0	0
9	それで	4	3	1	4	2	2
10	まず	1	1	0	3	3	0
11	最後に（は）	3	1	2	0	0	0
12	とか	3	3	0	0	0	0
13	その時	2	0	2	0	0	0
14	ために（目的）	1	1	0	5	5	0
15	また	3	3	0	0	0	0
16	次に（は）	1	1	0	0	0	0
17	しかも	1	1	0	0	0	0
18	～ように	1	1	0	0	0	0
19	～間に	1	0	1	2	0	2
20	～と	1	0	1	2	0	2
21	最初に（は）	1	0	1	2	1	1
22	そして	0	0	0	7	5	2
23	または	0	0	0	1	1	0
24	用言連用形	0	0	0	5	1	4
25	～し（並列）	0	0	0	1	0	1
26	その間	0	0	0	1	0	1
27	～時	0	0	0	1	0	1
28	しかし	0	0	0	2	1	1

29	つまり	0	0	0	1	1	0
30	結局	0	0	0	2	0	2
31	で（理由）	0	0	0	1	0	1
32	ので	0	0	0	9	3	6
33	到頭	0	0	0	1	0	1
34	そのあと	0	0	0	2	2	0
35	けれども	0	0	0	1	0	1
接続表現の 異なり数		21	16	14	24	15	17
接続表現の総数		102	58	44	79	40	39
発話総数		139	56	83	75	41	34
発話節数		210	99	111	131	64	67
平均1文 あたりの節数		1.51	1.77	1.34	1.75	1.56	1.97